

第 17 回秀光中等教育学校卒業証書授与式（2020 年 2 月 28 日）
第 72 回仙台育英学園高等学校卒業証書授与式（2020 年 2 月 29 日）
校長挨拶

令和最初の卒業証書授与式にあたり、6 年間あるいは 3 年間本学園で学ばれた卒業生の皆さんに心よりお祝い申し上げます。

ご承知のとおり、皆さんの周囲で新型コロナウイルス感染に関するさまざまな情報が飛び交うなか、進路決定に向けて重要な時期を迎えていることを思うとき、小職はじめ多くのご来賓の皆様と共に高等学校（中等教育後期課程）卒業の門出をお祝いすると同時に激励したい思いで一杯でした。

しかしながら、国の感染予防対策の方針に基づき、卒業生の皆さんの安全と健康を考慮した結果、学級単位の授与式となりましたことは誠に残念でなりません。

これまで学園生活を過ごしてきたなかで、何度となく歌われてきた校歌の歌詞の意味をお伝えし、「逆転の仙台育英」の真の意味をご理解下さることを希望します。

私事になりますが、私の祖父は太平洋戦争の敗戦後 BC 級戦犯の容疑で連合軍に逮捕され、現在のパプアニューギニア独立国ニューブリテン島にあるラバウル戦争裁判で有罪判決を受け、1946 年 8 月 1 日刑場の露と消えました。訃報に接した曾祖父利吉先生（仙台育英学園創立者）は深く嘆き悲しみました。そのような戦後の混乱期のなかで、曾祖父は新憲法下で新しい校歌を創りました。

校歌の 1 番の意味は、「南十字星は南半球にあり、我々日本人が拝むことはできないけれども、そこ（ラバウル）にいる英霊の御霊は天空を飛翔し、大人物の遠大な志（伊達政宗公）が宿る（住む）仙台（青葉城）にその御霊は帰参する。何と讃えようか！松島、千賀の浦、最高の教育環境にある青葉郷（宮城の大地）よ。ここを基盤として仙台育英の学び舎は栄光に向かって飛躍します。」

2 番の意味は、「平和国家となった日本国は、新しい憲法が唱える【平和】を国の花として讃えている。仙台育英学園の中でも国の花が咲き匂うことによって、子弟たちは【平和】の尊さと【平和】を護っていく崇高な道を築いていく。正にその道こそ、我が学び舎が平和の尊さを至高のものとして栄えていく基点になります。」

3 番の意味は、「燦燦と輝く北極星を御覧になれば、建学精神である「至誠」が目標となることは明らかである。二つ目の建学精神である「自治」の旗を子弟たちが高く掲げて、学園の独立を守ります。3 つ目の建学精神である「進取」の意気こそ「至誠」「自治」を貫く根本です。これを鼓舞する「自治の旗」は我が学び舎に栄光をもたらす源となるでしょう。」

現在、新型コロナウイルスの感染拡大が社会や経済そして教育の世界にも混乱をもたらしていますが、今こそ「逆転の仙台育英」の精神が宿る皆さんは、世のため人のために役立つ存在になって欲しいと期待しています。

秀光中等教育学校
仙台育英学園高等学校
校長 加藤 雄彦